

# 〈幕張・佐倉・津田沼〉 3支部の闘いを全支部へ 検修合理化粉碎!



82.8.11  
No. 1119  
国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二九三五六(公衆)三三三三二七〇七

## 57.11へ向け、検査・検修合同会議開かる(8/7)

8月7日、10時より動力車会館において「検査・検査合同会議」を開催しました。国鉄をめぐる情勢は、7月30日における臨調基本答申に見られるごとく大変きびしい状況の中で、すでに検修下廻り合理化が中央レベルで妥結した中で、国鉄当局は当面むかえる57・11ダイ「改」で一気に結着をつけようと策動してきています。この日の合同会議は、幕張・佐倉・津田沼三支部検修現場で先駆的に切り拓きつつある闘いを中間総括・点検して、更に強化させて全支部に押し拡げていく上で非常に重要な会議となりました。三支部中心に全現場からの反響を組織しよう!

### 敵が踏み込んできたら、逆に押し返せ

合同会議は座長に林執行委員(検査分科会長)を選んで進められ、奥川委員長より「きびしい情勢の中でわれわれは8月4日臨調基本答申粉碎総決起集会をもって立ち上った。いまこそ何をなすべきか向わっている。これまで国鉄労働者はあのマル生攻撃をはね返してきた。敵が一步、二歩と出てきたら、押しこまれるのではなく逆に押し返さなければ勝てない。あらゆる英知を結集して政府・自民党・国鉄当局・動労革マルの敵対を許さず闘っていこう」と決意を込めた挨拶をうけました。続いて本部を代表して片岡執行委員より、①本日合同会議の目的、②情勢、③今後のとりくみ方針についての基調報告をうけました。

### 貴重な体験を活発に討論

討論は出席者から活発になされました。今かけられている攻撃が国鉄労働運動解体攻撃であること、先輩たちが築いてきた遺産をどう守り伝えていくのか等々に集中して取場の危機感と生きた経験にふまえた貴重な意見が出されました。また国労定期大会や国労各分会・現場の闘う基盤への評価やこれとの共闘強化の意見、動労「本部」革マルの「つこう運動」への弾劾、とりわけ「ブルトレ添乗手当の返上」にみられる大裏切りへの激しい怒りが多く出されました。また臨調攻撃下での「千葉局の対応」について、「私鉄方式にもってこい」とする攻撃、「労働運動そのものの否定につながる」ともの

も言えない労働者づくり」「外環を埋める祖い」「あき日に手をつけようとする攻撃」「提案制度の問題」等々さまざまな攻撃に対し、すでに現場生産点から、作業工程の見直し、の闘いをつくり上げつつある体験をひまえた苦心や成功例、失敗例等、貴重なる問題提起もなされました。そして、今後の動労千葉全体としての取り組みについて「敵にスキを与えず、ガツンとした体制破壊が緊要である。57.11に向けた減産闘争の実施、三六協定の放棄をも含むあらゆる戦術を柔軟に駆使して闘っていこう。三支部でのこの成果をさらにみかき上げて全支部の闘い、更に闘う全国の力へと発展させよう」との決意をうち固めました。

### 一点の火花、いざ燎原を焼き尽せ!

10.11三里塚・57.11ダイ「改」に向け決起しよう! 総括答弁に立った水野副委員長から「本日の皆さんの貴重な討論を今後十分に反映させてゆきたい。直ちに、特効薬、みたいな物は無いが、一点の火花、燎原を焼きつくす」という言葉があるが、この三支部の苦闘は、これから燎原を焼き尽くす力を秘めた一点の火花だと言える。各支部間の交流を深める中で、これからの情勢に十分太刀うちできる闘いを創造していこう。動労千葉の三里塚・国鉄労働運動路線の真価を今こそ発揮し、10.11三里塚総決起と結合した57.11ダイ「改」闘争に勝利しよう」との集約をうけ、全員の意気高い団結が「パロー」をもって、この日の初の合同会議を終了しました。